卒業生はかくかたりき

高橋　武文

学部を卒業してはや二年、何か変わったか？って言われてもまぁ大して変わってないんやろね。バドミントンは週一から月一とどんどん遠ざかって、クラブの試合でも不甲斐ないものばかり。今では研究室でアラサーって呼ばれたり呼ばれなかったり。まだ２５です。振り返ればこの二年は、あまり余裕の無い二年でした。財布なり、就職活動の面接なりいろんなもんを落っことして…。たまにはかわいい女の子でも落としてみろって自分でツッコミたくなります。うそです。この二年不幸というより、自分を省みる時期だったんでしょうね（苦笑）

学部卒業時にある程度言いたいことは言ったんで、ここでは２年間を振り返って僕が感じたことをツラツラ書いていきます。結論から先に言えば「自分という人間を知ること」です。

・自分を知るには、他人を利用すること。
・他人を利用するには、他人を知ること。
・他人を知るには、自分をネタにすること。
・自分をネタにするには、自分を知ること。

理系の発現とは到底考えられない論理立てですが、バドミントンを例に簡単に説明します。自分の長所、短所は案外自分よりも他のプレーヤーが知っているもので、それを聞き出すには結局自分のことをある程度知っていないと無理だということです。でも少しずつ繰り返せばきっとそれは大きなものになると思います。具体的に言えば、基礎打ち後のアドバイスを生かしたいのなら、自分の欠点をぶつけたうえで、その人から最大限引き出せって感じでしょうか。その繰り返しが重要なんだと思います。バドミントンを例にしましたが、僕にはこれはむしろ実生活で感じる部分が多かったです。就職活動なり、研究なり、恋愛（？）においてそれぞれ自己分析、自分の研究の位置付け、自分の恋愛感（？）なり他人から学んだ部分が多かった気がします。まぁ引退した身分の戯言なんで聞き流してくださいませ。

最後に、先生方および同友の皆さんにはこれまで大変お世話になりありがとうございました。僕は来年から仙台を離れ皆さんとはなかなか会えないとは思いますが、もし関西（？）に来る機会があればどこへでも駆けつけるんで連絡してくださいね。「サシ飲み」でもしましょう！